9-408

勝觀

之全

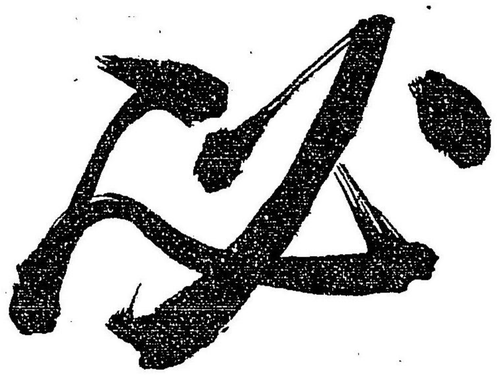
敬神愛
國忠

卿等恭惟皇帝長
迎衛萬壽疆

聚瑞堂藏

悔

心西定



有才

京都府經畫
渡邊松題

行路案内記

佐藤孝郷編纂

明治廿八年四月には京都に於て該市民の執行する桓武天皇平安遷都千百年に當れる紀念祭あり之と同時に第四回内國勧業博覽會を開かれ其開會式へ同年四月一日にして紀念祭の大祭典は同しく[illegible]なり而して此紀念祭を執行するか爲めには京都市民は彼の大内裏の昔時最も壯殿華麗なり[illegible]大極殿を模造建築して拜殿となし左に蒼龍樓右に白虎樓を設け各一歩廊を通し且つ龍尾壇の前面に方り神門乃ち應天門を立て又大極殿の正面に正殿を造營して　桓武天皇を奉祀し長く不朽に傳へんとするの擧あり然るに有志家の之を參同するもの頗る多く東西兩京に紀念祭協賛會を設立し近衛公爵は其會長に佐野子爵は副會長と爲り有栖川大將宮殿下を推戴して總裁と仰き奉り以て大會を組織するに至れり其間辱くも　帝室より金弍萬五千圓を賜ひて御補助あり尋て金を醵し資極を投じ此擧を賛成するもの少なからす依て此紀念祭及ひ博覽會を機會とし大に我國光を外に發揚し我國力を内に增進せしめんと官民を問はす有力なる人士之か周旋をなし近畿諸府縣は素より關西及中國四國相共に聯合して紀念祭の區域となし各地の名勝古跡を縱覽せしめ且つ加ふるに種々の催しをなして到る處を賑かにせんとするの計畫は着々其歩を進むるに至れり蓋し此の如きは千歳の一遇にして未た曾て有らさる所の盛大なる大祭典と年一年より進歩擴張せる勧業博覽會

の出品と相須て我國光を四表に輝かすに足るは信して疑を容れす茲に參拜者諸君の爲め其路次の便宜に由り行途の順序を掲けんに先つ東より來るものは熱田停車場に下車し熱田の大社に詣てゝ其神寶を拜觀し夫れより日本共立汽船に乘り四日市に出て更に關西參宮兩鐵道に搭して山田に至り外宮幷内宮を拜すへし大廟の尊嚴なるゝ至りては即ち恭敬の心を起し共に感泣の外なかるへし又二見ヶ浦の海濱を望み朝暾の波に映して昇り出つる絶景の眺めは快の大なるものなり夫れより神社に至り再ひ汽船に搭し熱田に出て名古屋に行き彼の五層の閣金鯱の城を仰き見其城廓を拜觀するときは中世建築の堅牢なる規模の宏大なる德川幕府の世の有樣を親しく見るに足るへし又岐阜大垣を經木曾長良の二大川を渡り此間彼の孝子の事蹟今に其譽れ高き養老の瀑泉を觀るも可ならん而して關ヶ原の古戰場を超へ彦根金龜城の佳絶なる湖山を眺望し近江八景は汽車の窓より指點瞻視し或は船を湖上に泛へて瀲灩たる水波の中を行吟し竹生堅田の勝景を訪ふときは羽化登仙の思あらんさて京都に至りては其地たる千百年の帝都たり

桓武天皇以降皇朝の歷史皆此地を以て中點とすされゝ四方の山水と雖とも唯た風光の美のみにあらす歷史と關係なきもの殆んと稀なり故に博覽會の出品を觀神社佛閣ゝ詣てるの外殊に裨益ある者は紀念祭の執行なりとす平安神宮の正殿は造營せられて既に官幣大社に列せられ大極殿幷に蒼龍白虎の兩樓應天の神門は已に其功を竣へ彼の大極殿屋上の兩端に据付たる金の鴟尾は碧の甍と相映して天に翔り朱塗の柱梁は虹の如く雲に聳ゆ是等壯麗なる有樣を仰き見るときは大内裏の往古王政盛隆の當時を想ふに足るへし而して參拜者は其章牌を佩ひ應天門を入り直ちに龍尾壇に上り勸盃票を出して神盃を拜領し神酒を頂戴して神宮を拜するときゝ誰か恭敬の心を起さゝらん誰か神德を感戴せさらんや

且夫れ博覽會の出品は如何に我か文明の進歩を表し我か農工商の發達を顯はし以て國家將來の益々多望なることを推知するに足るへきか頻年各府縣に設立したる種々の製造場工作場等擧て數ふへからす普通日常必要の品物を始め西洋の輸入を防かんとて彼れに摸倣し造り出せる新物産の夥多なるあるは勿論古來我國固有の工藝を以て改良品を出せるもの亦少なからさるへし就中美術流行の今日我日本美術とて目下西洋各國に其聲價を博し得たるとなれは特に此種の物品の更に他より多からんと知るへきなり加ふるに近來大發明の出んとする前驅として種々の小發明少なからされは必すや意匠の斬新なる工夫の特殊なるもの器械其他の上に顯はして之を前の第三回博覽會に比すれは幾層か其歩を進めたるや必せり且つ出品物の多き此の如く新奇の事物此の如くならんゝは觀て以て利益を與ふるの多き知るへし即ち機械工作美術工藝農業山林採鑛冶金漁獵水産養蠶牧畜其他百般の出品遺す所なく一場の中に縱覽して優劣相比し得失相較へなは其益も亦大ならん

次は名所古跡の事なり或は神社を拜し又は佛閣に詣て或は山水を觀又は林泉に遊ふときは到る處として王代の舊きに非さるはなく行くとして歷史の跡ならさるはなし叡嶽の青螺高く東北の天に聳ゑ東山三十六峰翠微の間に多少の樓閣參差相映し加茂川の流れ清くして心目を洗ふに足り疏水

の開鑿其功成りて人力恰も天工を奪ふに似たり看よ彼の傾斜道には電線を架して自在に舟を上下せしめ水力電氣は京都全市諸機械の動原をなし隊道山を鑿て暗黒數里舟の往來を通し舷燈宛も流螢の如く噴泉十丈空に騰りて白龍躍り跳珠日に映して斷虹屢〻顯はるゝあり又眞如黒谷南禪寺清水華頂山四時の風景宜しからさるはなし方廣寺の巨鐘は古色蒼々たり銀閣寺の銀砂灘は斜陽寂々たり北には大德寺を訪ひ彼の燒香論の當日を想ひ起し東寺の伽藍堂塔は古建築の巧妙を見るに足れり本願寺の巍々として壯嚴無比なる高堂に詣てなは誰か其盛なるに驚かさらん八幡の大社には黄金の承露名高く山崎は古戰場の跡多し嵐峽の花高雄の楓北野の天滿宮より金閣寺に至るまて洛西洛北其名勝數ふるに遑あらす就中御苑には皇居儼然として紫宸殿高く聳ゆるあり二條の離宮は依然其舊觀を保てり是等名所古跡の著名なるもの三四を擧くるも既に此の如し若し全般を知らんと欲せは其數甚た多くして一々記するに遑あらさるなり殊に各神社佛閣等に藏する所の寶物什器の觀覽に至りては到る處陳列展覽ならさるはなく彫刻繪畫古文書古器物の類皆美術妙技の神髓たるへく精華たるへく質に　桓武天皇遷都以降の舊文物は昭々として其沿革の跡發達の形皆悉く觀るへきなり

更に轉して奈良に赴かんとするの途次南大佛より滑石峠を超へ山科村に至り彼の有名なる大石良雄の隱れ家を見夫れより栗栖野に出て坂上田村麻將軍塚を拜するときは將軍か　桓武天皇より賜はりたる節刀を佩ひて東北地方を平定して王化に浴せしめ青森縣下壺村に日本中央の四字を勒したる一大碑石を立てられたる規模を追想すれは誰か當時の偉勳を欽仰せさらんや夫れより勸修寺醍醐寺日野藥師黄檗山萬福寺又は興正寺等の巨刹古堂を歷覽するときい見るとして珍奇ならさるはなし而して宇治川を渉りては佐々木梶原二氏か先陣を爭ひたる所たるを知り平等院に至りては巧妙なる鳳凰殿の建築を見又源三位頼政か遺愛なる扇の芝を過き其戰ひ敗れて自盡せし古跡を追懷するときは低回去る能はさるの感あり又歩を移して伏見の桃山に遊ひ伏見の城址竹林松樹の間に逍遙し雙眸を凝して眺望するときは南い伊駒山金剛山西は岩清水山崎北は西京の全景宛然眼中に入り快絶言ふへからす山を下る數丁にして　桓武天皇柏原の御陵あり就て拜し又行くと數十歩玲瓏たり三笠の山は高くして鬱蒼たり春日神社を參拜しては神鹿の人に馴れ近つくを喜ひ銅大佛の雲間に聳ゆるを見ては其大なるに驚く其他古社寶刹の參觀すへきもの甚た多し就中正倉院の御物を拜觀し法隆寺の寶物を覽閲するときは一として皆千有餘年以前のものに非さるはなく其故さを温ね新きを知るの益も亦應さに大なるへし而して大阪鐵道に乘り天王寺にて車を下り其五層閣に上り浪華の全景を概見して路の向ふ所を定むるも亦可ならん夫れ大阪は日本第二の都會と稱し繁華の勝境にして商業の中心たり將た百工製造の本場たると謂ふへし造幣局の工場に入りては金銀貨花の如く雨の如く紡績場に至りては雪花紛々として人工の銀世界たり其他玻璃又は硫酸の製造麥酒若くは火酒釀造の所等見るとして人目を驚かさゝるはなし更に大阪城を仰きては豐大閣の

雄圖を想ひ三歳を期して此一大堅城を築きたる艨斗の大なるに至りては誰か驚嘆せさらんや然して三大橋を渡り左顧右眄せは橋聲燈影其殷富旺盛を知るに足る住吉には白帆の點々たるを賞し堺港には鮮魚の潑剌たるを見以て心目を慰するに堪へたり而して河内の四條畷までは輕便鐵道の便あり其距離八哩少時往來するを得小楠公か父公の志を繼き王事に斃れて已ひの昔時を追懷するときは感涙の袖を濡すを覺へす嗚呼公の如きは人臣百世の師にして古今洵に其匹なきなり夫れより神戸に至るときは布引の瀑泉奇觀又壯觀にして春雷を轟かし夏雪を噴く湊川には嗚呼忠臣の古碑石あり和田の岬には水族館を設け萬種の活魚を一池の中に養ひ以て縱覽に供せるあり水産家は視て參考の資と爲すに足るへし更に諏訪山に上れは一望開豁にして紀淡河泉の諸山歴々指點矚目するを得是れより山陽鐵道に乘り須磨壇の浦一の谷舞子灘明石等を眺望し石の寶寺尾の松高砂の松等を歴覽し岡山に入り後樂園の林泉に遊ふときは其風景佳絶にして塵寰を出つるの想あらん進んて廣島に入り宮島に至るに及んては彼の壯觀なる千疊敷の大經堂に五重の塔を見又古器寶什の展覽は固より彼の百八の回廊を目擊せは其興其快亦甚た大ならん而して呉港宇品港を巡覽し我か征清諸軍か艨艟に駕して萬里遠征の途に就くの所たるを思ひ又殊死奮鬪して戰へは必す勝ち攻むれは必す取り以て上は我　皇上に報ひ奉り下は我か國家に盡すの勳勞を察すれは誰か感謝せさるものあらんや夫れより轉して關西同盟汽船に搭し多度津に航し讃岐鐵道に乘り琴平神社を詣てゝ寶物を覽觀し諸所を眺望するときは一段の興致あらん去りて汽船に搭すれは内海の光景舷頭に隱顯し青松白砂一々指點顧望するを得ん而して船神戸港に達すれは更に定期船に轉して紀洋の鰐浪を冒し進んて遠灘の鯨濤を凌き以て横濱に入り路次又江の島鎌倉等の勝景を探りて歸途に就くときは其興趣も亦多からん若し夫れ又汽車に上り浪華を經て京師に入り前盟を繼きて光景を賞觀するときは山水も亦歡ひ迎へて相親み其快樂蓋し舊遊の比にあらさるへし

右は參拜者諸君か遊覽せらるへき行路の順序と各地の勝概とを掲くるのみ幸に探討時日の餘暇あらんには日本三景の一なる天の橋立を始めとし猶往くへきの境探るへきの勝素より少なからす觀て以て我人に幸福を與へ快樂を及ほすの多きは勿論にして豈に能く吾輩の悉く筆し得る所ならんや且つ茲に附記せる旅費概算書の如きは此遊に便せんか爲め務めて簡約を旨とし以て調整せり若し夫れ參考の一端に供するを得は幸甚

明治廿七年十二月十日京都市鴨川木蘭橋畔の寓居に於て

平安遷都紀念祭協賛會委員　佐藤孝郷記す

行路順序并旅費概算書備考

本書ハ東北地方より平安遷都紀念祭及ひ内國勸業博覽會に赴れ又は各地の神社佛閣に參詣し或は名所古跡を見物せらるゝ諸君の便覽として編纂せるも其旅費額に至りてハ各發程地より毎に一〻調査掲載し難き者あり故に東北地方の中心たる仙臺を起點として往復の實費を算出せり依て例は

一北海道よりせらるゝときは其滊車賃に在りては札幌小樽間又は札幌室蘭間の炭鑛鐵道及青森仙臺間の日本鐵道に於ける各賃金又滊船に在りては小樽函館青森間或ハ室蘭函館青森間其他各港よりの渡航費と休泊料并乘船上陸の諸費

一青森、盛岡は各停車場より仙臺に至るの滊車賃

一秋田は横手通平和街道を經黒澤尻より上車する諸費或は大館を經弘前に出るの陸行費并に夫れより青森及仙臺に至る滊車賃

一山形は米澤を經栗子峠を超へ福嶋に至るの陸路費を加算して仙臺より福嶋までの滊車賃を除算したる行路又は山形より作並通り仙臺に達する陸行費

一茨城、群馬、栃木、長野及東京よりせらるゝときは仙臺よりの滊車賃を除きたる實費

以上の諸費は其路次の便により各地同しからざるものあるを以て爰に之を略せり庶幾くは本書に掲けたる仙臺よりの費途ハ前記の分を併算ありて其概額を算定せられんことを

一茲に注意すへきは滊車百哩以上は三日二百哩以上は四日三百哩以上は五日と其遠近に應し切符通用の期限に定まりあれは各鐵道に於て上下し得へき停車場を聞合せ切符を示して隨意に下車し又は上車するを得且つ日本鐵道は紀念祭の時に限り其切符の通用期限を特別に延ばし以て其便を與ふる筈なれはたとへ往復切符を求むるも前記の制限に拘はらす旅行し得るの便あり

以上

行路順序並旅費概算

東北地方より京都に赴かんとするものは割引乗車船賃に割引票を副へ乗車船切符を求むへし先つ仙臺より東京に向はんには上野にて

一金參圓四錢(中等は金四圓五拾六錢)の往復乘車切符を購ひ

一金拾錢の辨當を求めて車中之を喫し若し東京に用事あるか或は休憩を要するときは一泊宿料畫食料にて

一金五拾錢而して京都までの滊車賃は參拜章を佩用して新橋停車場に就き之を求むるときは割引往切符を得

一金貳圓六拾四錢(中等は五圓貳拾八錢)なり又車中の畫食は

一金拾錢とし夫れより熱田停車場に至り切符を示して下車し直ちに熱田大社に參詣し了て同所に一泊す其宿料は

一金五拾錢に上らす其翌朝勢州四日市に航する日本共立滊船に乘り

一金拾四錢(中等は金拾八錢)を拂ひ四日市より宮川までは關西參宮兩鐵道の連續切符を買ひ逐次之れに乘り

一金四拾壹錢(中等は金六拾貳錢)を拂ひ且つ晝食料參詣費等

一金參拾錢を要し內宮及外宮を拜し夫れより二見浦に至り一泊す其宿料幷神社までの費用に充て

一金五拾錢とし其同地有名ある日出の絶景を見て神社より又熱田行の滊船に乘る其船賃

一金貳拾壹錢(中等は金參拾貳錢)なり熱田に至り停車場にて前の滊車切符を示して上車し名古屋に着し金城其他名所見物の上一泊

一金五拾錢とし又上車して岐阜大垣關ヶ原を經途中晝食をなすときは

一金拾錢を要し彦根を過き琵琶湖に沿ひ終に京都七條驛に達し下車するや旅店案內所又は博覽會縣廳事務委員等の紹介を經宿泊すへき旅亭を定め以て混雜の累を避くるゝ緊要なり且つ京都は紀念祭博覽會幷神社佛閣名所古跡參詣遊覽をなすべき場所多ければ費用も亦多きを要し一日凡そ金壹圓つゝを費すものとし滯在四日間の見込にて

一金四圓とし參詣遊覽了るに從ひ直ちに歸途に就くものは又七條驛に至り參拜章を示して新橋行復切符を求むるときは

一金貳圓六拾四錢(中等は金五圓貳拾八錢)とし且つ夜行滊車に乘るときは二度分の辨當料

一金貳拾錢を要し新橋着の上東京一泊をなし宿料其他にて

一金五拾錢となすときは上野驛に上車するまて事足るへし然れとも遊覽時日あるものは是れより宇治伏見を經奈良に行くをよしとすさて大佛より滑石峠を越へ山科に出田村將軍塚を拜し夫れより近傍所々見物せんには其雜費等

一金參拾錢計りにて辨せん若し奈良鐵道開通以前なるか又開通するも木津川に止るときは車行又

は歩行の便宜に從ひ其費用凡そ
一金四拾錢とし奈良に至り一泊し見物濟費食等大約
一金五拾錢を要し夫れより大坂鐵道にて法隆寺に至る其汽車賃は
一金八錢（中等は金拾六錢）と法隆寺參詣費
一金拾錢とを見込又同鐵道にて大坂天王寺に向ふも汽車賃は
一金拾八錢（中等は金參拾五錢）とし天王寺五層閣等を一覽し便宜投宿す其宿料は大坂堺見物の爲め一日金七拾五錢つゝを要するものとし二泊にて
一金壹圓五拾錢とし且つ河内國四條畷神社に參詣するときは目下布設の輕便鐵道も廿八年五月中に其功を竣べきを以て往復汽車賃凡そ
一金拾參錢（中等は金貳拾貳錢）と小楠公參詣費
一金拾錢とを要するものとし了て大坂より神戸ゑ至る汽車賃は
一金貳拾錢（中等は四拾錢）とし神戸一泊の上訪諏山に遊ひ布引の瀑泉を見湊川神社を拜し和田岬の水族館一覽同所宿料等を
一金五拾錢とす夫れより廣島まて山陽鐵道の汽車賃は
一金壹圓四錢（中等は金壹圓五拾六錢）なり所々見物の上岡山に一泊
一金五拾錢の費用としさて廣島に入り吳宇品兩港を一覽し一泊又

一金五拾錢を要し轉して關西同盟汽船に乘り宮島に至る其船賃ハ
一金八錢（中等は金拾貳錢）とし嚴島を見物するの費用又は賣食料等
一金參拾錢計り夫れより同汽船にて多度津に渡る船賃は
一金貳拾四錢（中等は金參拾六錢）多度津琴平往復汽車賃は
一金拾貳錢（中等は金貳拾錢）と參詣費賣食料とにて
一金參拾錢を要し了りて又多度津より汽船に乘り
一金六拾錢（中等は金九拾壹錢）を費し神戸着一泊其宿料又
一金五拾錢とす而して同所より汽車東上せんには官線鐵道にて京都七條までの割引賃を拂ひ參拜章を示して切符を求むへし
一金參拾八錢（中等は金七拾六錢）夫れより七條新橋間の賃金
一金貳圓六拾四錢（中等は金五圓貳拾八錢）にて東京着一泊
一金五拾錢を要し前の往復切符にて上野に至り日本鐵道に歸途に上る
されとも神戸より海路横濱に航するときは紀州灘遠州灘の絶險を經萬里遠征の我か軍人か勇壯なる働きを想ひ起せとときは胸襟勃々として意氣軒昂し其豪快限りなからん依て之れか費用を算するに
一金壹圓貳拾五錢（中等は金貳圓五拾錢）神戸横濱間船賃の外艀賃

一金拾錢を要し船中に一泊して横濱に着し夫れより江島鎌倉を遊覽せんには滊船又は滊車等其順路に從ひ行くときは多額の費用を要せすして歷遊し得ん然らすして直ちに東京に行かんには

一金貳拾錢（中等は金四拾錢）の滊車賃を拂ひ新橋に着し便宜投宿

一金五拾錢計りとし夫れより直ちに歸途に就くものは前の往復切符を以て上野停車場より上車するなり此途次時日に餘あらは宇都宮より下車して日光鐵道に乘り往復賃金四拾八錢（中等ハ金七拾貳錢と）參詣案：費金參拾五錢一泊費金五拾錢を費すときは海内無双の名ある日光の玉殿寶閣を參觀し晃山の勝景を探討し得へきなり

右の概算に依り之を思惟するに參拜又は遊覽の時日に限りありて單に京都の往復に止まるあらん或は伊勢の大廟を拜して京都に至り後ち歸るものあらん或は奈良大阪神戸廣島嚴島琴平を歷覽して神戸より横濱に渡航し而して歸途に就くあらん或は再ひ神戸より滊車京都に至り又前遊を繼きて東上するあらん又は歸途宇都宮より日光に遊ひ晃山の勝を探りて此遊の全局を完せんとするものあらん是等は各人の都合と任意とにより豫め期すへからさるものあり依て各々行途の費用を列記して參考に便せん

金拾參圓八拾貳錢	滊車下等	仙臺より京都まて往復滯在の費途を豫算せしもの
金貳拾壹圓拾貳錢	仝　中等	
金拾六圓參拾八錢	滊車下等	仙臺より熱田伊勢名古屋を經京都に至り滯在の上歸途に
金貳拾參圓五拾四錢	仝　中等	就く費途の概算
金貳拾參圓〇六錢	仝　下等	仙臺より熱田伊勢名古屋を經京都に至り又奈良大阪神戸嚴島琴平を見物して海路横濱に航し歸途に就く費用の概算
金參拾四圓五拾四錢	仝　中等	
金貳拾四圓五拾參錢	仝　下等	仙台より熱田伊勢名古屋を經京都に至り又奈良大阪神戸嚴島琴平を見物し再ひ京都に遊ひ東京を經歸途に就く費用の概算
金參拾參圓五拾八錢	仝　中等	
金壹圓參拾六錢	滊車下等	上野驛上車の後宇都宮より日光に入り同所遊覽の上再ひ
金壹圓五拾七錢	仝　中等	宇都宮に至る間接費の概算

以上は要用なる旅費の概額を算出せるものにして爰に掲けさる臨時の費途あるは勿論あるへし其遊覽愈多く探討益進み境に觸れ情を生し歌詠流連の餘り覺えす多費を要するか如きは勢の免かれさる所にして豫算し得へきものに非るなり唯特に一言すへきことあり紀念祭を賛同するか爲め東は熱田名古屋岐阜山田彦根大津西は奈良大阪堺神戸岡山廣島嚴島琴平等に於て名區勝地の縱覽神社寺院の參觀等各々其設けあれは參拜章を佩用する諸君の爲めには極めて便利なるべけれは紀念祭の前後便宜の土地より漸次遊覽せらるへし此遊覽は紀念祭協賛會より贈與の圖面と本書案内記とに就き歷遊の順序乘車船の便宜等を考へ甲地より乙地乙地より丙地と順次歩を移して見物せは旅費は節減し遊覽は充分になし得らるへし

行路案内記終

明治廿七年十二月廿[illegible]日印刷
明治廿七年十二月廿四日發行

正價實費金三錢

編輯兼發行者　宮城縣仙臺市東三番町四十五番地士族　佐藤孝郷
發賣者　京都御幸町一番地　藤井孫兵衛
同　東京京橋區南傳馬町一丁目十二番地　吉川半七
同　大阪南區心齋橋南一丁目　松村九兵衛
印刷者　東京京橋區築地二丁目二十番地　野村宗十郎
印刷所　東京京橋區築地二丁目十七番地　株式會社東京築地活版製造所

各府縣發賣所

東京日本橋通三丁目　丸善書店
同　同通一丁目　大倉孫兵衛
同　神田表神保町　中西屋邦太
同　同　同　開新堂
同　同裏神保町　敬業社
同　同　同　三省堂
大阪備後町　梅原龜七
同　北久太郎町　柳原喜兵衛
同　北久寶寺町　三木佐助
同　備後町　吉岡平助
同　南久寶寺町　前川前兵衛
京都寺町通　梅原支店
同　同　一　若林本店
同　三條通　大谷仁兵衛
和歌山湊町　平井文助

岐阜米屋町　三浦源助
同　下竹町　貫通舍
三重　津大門町　河島九右衛門
愛知　名古屋本町　片野東四郎
同　本町　川瀬代助
靜岡　新通一丁目　阪本屋儀助
越後　長岡　目黑十郎
同　同　上田屋治平
同　水原　西村六平
同　新潟　櫻井產作
同　地蔵堂　江口藤吉
同　三條　樋口書店
横濱　辨天通　丸善書店
同　松枝町　弘集堂
山梨　甲府八日町　五明堂正八

山梨　甲府柳町　柳正堂源太郎
長野　松本　水孚堂
同　同　松榮堂書店
同　同　高美書店
同　小諸　小山佐傳次
同　長野　西澤京太郎
同　同　埒屋書店
群馬　前橋　煥乎堂
同　高崎　煥乎堂
宮城　仙臺國分町　金港堂
同　同　高藤書店
同　同　伊勢安書店
同　同　木文書店
同　同　佐勘書店
青森　青森市　鐵田書店

同　弘前　野崎九兵衛
同　同　今泉書店
同　八ノ戸　浦山政吉
北海道　函館　魁文舍
同　札幌　振進堂書店
山形　八日町　五十嵐書店
同　同　牧野德太郎
同　鶴岡　地主文藏
同　同　日向源吉
秋田　秋田市　成見清兵衛
栃木　宇都宮町　集英堂
同　同　田中正太郎
茨城　水戸上市　川又銀藏
千葉　蘇千葉　多田屋支店
同　佐原　正文堂

9
408

9
408

022464-000-3

9-408

行路案内記

佐藤　孝郷／編

M27

ADB-0123